

2022年1月8日(土) 上演④

静岡県立伊東高等学校

## 「NIght iS OvEr」

第57回関東高等学校演劇研究大会(東京会場)

生徒講評委員会 講評文

生徒講評委員会 担当委員

田中 遼(東京都立青梅総合高等学校1年)

舞台上の不思議な空間。新感覚の演出。そしてこの後味。タイトルの通り、「これは間違いなく夢の世界だ!」と思わせてくれた劇であり、観ていた生徒講評委員はこの劇のとりことなった。

「夢」というと表現するのが難しいイメージを持つ題材であるが、この劇でのストーリーの進み方や、色々なネタが入り交じって構成されて、とても飽きない。

一見、内容についていけないようなシュールさだが、何故か受け入れてしまうこの空間。それは本当に「夢」そのものだった。熱に浮かされた時に見る夢、と言ってもいいかもしれないと感じた。

演出も素舞台であることの利点を活用したものだった。役者一人一人がのびのびと演技をしていたり、途中で繰り出される「高校演劇あるある」からは、役者からの演劇愛を感じられるものであった。

また、舞台をめいっぱい使った団体でのまとまりのある身体表現や、音響、ナレーションと息ぴったりな面においては、伊東高校の団結力の強さが感じられた。

ナレーションの声に併せて舞台上の6人が舞台上を駆け回り、スマホのフラッシュライトを使用したり、舞台上をUberEATSのお兄さんが自転車で走り抜けていくなど、とにかく斬新で新しく、面白いものが沢山あり、観ている者の心を驚かすことにした。

なかでも素足の演出には驚いた。素足という利点をいかし、足音を出すところや出さないところを作ってあり、伊東高校の表現の幅の豊かさに驚かされたとともに、学ばされたという講評委員が多かった。

題名を初めて見た時、大文字と小文字の組み合わせが気になっていたのだが、最後にはその伏線も回収してくれたシーンは意味が分かって嬉しかった。

静岡県立伊東高等学校演劇部の皆さん、ステキな60分をありがとうございました。

